



皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。
平素よりご芳情に深く感謝申し上げます。

さて、四月に施行された統一地方選挙に九度目の挑戦をさせていただきました。多くの皆様に背中を押していただき、決断がついたのは秋でしたが、冬から春にかけ県政報告会を中心に集中して活動を行うことができました。

結果は、無投票当選となりましたが、皆様からの大きなお力添えを改めて感じ、身の引き締まる思いであります。

また、七月には第二十五回参議院議員通常選挙が行われました。私たちの地域においては所期の目標は達成できたと感じております。

一人区では暑い中、県下くまなく走り回って政策を訴え続け、二十七万票を獲得された堂故茂参議院議員はじめ運動員皆様の活動に敬意を表し、心よりお祝いの言葉を申し上げますと存じます。

また、比例区においては、自由民主党候補として見事三選を果たされた山田俊男参議院議員はじめ県内ゆかりの皆様がますますのご活躍を祈念申し上げます。

近年の参議院議員選挙の投票率は、五〇％台で推移しています。今回は、特に若者の投票率の低さが目立ちました。非常に心配な事態と言わねばなりません。

ごあいさつ

若い方の投票に対する意識をより深く掘り下げ、理解を得るための努力を一層重ねる必要があるように感じる次第です。

いよいよ「地方創生」を掛け声だけに終わらせない本気の取り組みが求められる局面に入ってきたと感じています。

人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう「本気」を出さねばなりません。

例えば、地方における中山間地域の対策は、「地方の中の地方」を持続可能な社会に維持していくための対策であり、「地方にとっての地方創生」とも言える象徴的な課題です。

また、「第五世代移動通信システム（5G）」のような革新的な技術を利用して地方に活力を生み出す政策を進めることも意義のあることだと考えております。

終わりにりましたが、暑い毎日が続いております。くれぐれもご自愛の上、ご健勝にてお過ごしください。また、ようご祈念申し上げてご挨拶とさせていただきます。

富山県議会議員
自由民主党富山県支部連合会 常任顧問
米原 蕃

平成30年11月 自由民主党富山県連役員による要望活動
大臣、自民党役員に県連の要望を伝える。



二階自民党幹事長に富山県連の代表者が要望を伝える。



麻生財務大臣と。



荻生田自民党筆頭副幹事長と。



加藤自民党総務会長と。



令和元年6月2日 橋本聖子参議院自民党議員会長が砺波市に来訪。



平成31年2月4日 石井知事と予算折衝。



令和元年5月12日 自民党県連 支部長・幹事長・事務局長会議において発言。

米原 蕃 後援会事務所

〒939-1371 砺波市栄町6番27号 電話 0763-33-4511 FAX 0763-33-2321

皆様のご意見をお待ちしております。 www.tonamino.com

経営企画委員会

米原蕃委員の質問(要旨)

*富山空港の再活用について

テーマ

ビジネスジェット機の
受け入れを考える

米原委員

・富山空港は、地方空港の中で最も市内に近いという利点がある。ところが、新幹線が開業して以来、東京便が減便になった。

・もつと富山空港の活用を図ることができないかと県も考えていらっしゃるが、議員会としてもいろいろと提案をしてきた。

・その中に「将来、ビジネスジェット機を利用する時代になってくる」とおっしゃる方が結構おられた。地方創生の中で、これからのビジネスジェット機の受け入れについてどのような考え方をもちなのか問う。

濱瀬空港施設班長

富山きときと空港における、国際ビジネスジェット機の入港回数については、平成二十八年度は五回、平成二十九年度は十回、今年度は既に十九回入港している。

米原委員

・利用が年間十九回まで伸びてきているし、これから増える可能性があると感じる。

・問題は、長い日程で滞在するジェット機の需要があったときに対応が可能か

米原蕃の考える県政

『今の課題』



●北陸新幹線開業から四年目を迎え、本県経済は飛躍的に発展した。人の交流、物流の進展、産業の活力が着実に進化している。

金沢―福井敦賀間の着実な整備、二〇三〇年頃までの京都大阪までの延伸、関西―北陸―東京の大ゴールデン回廊が完成し、東海道新幹線の代替補完機能として日本の国土軸の形成に必要な不可欠な国家プロジェクトの早期実現を望みたい。

●人口減少が進んでおり、富山県人口は、ピークの百十五万人から、平成三十年度は、百五万人まで減少し、近い将来百万人を割ることが確実である。

若者が首都圏に集中しては、日本の将来はない。地方に若者が育ち、生活基盤ができてこそ日本に活力が生まれる。地方拠点強化対策に積極的、強力に取り組んでいくべきである。

●飛越能地域も含め総合的な観光戦略の展開が必要である。高山線の安全対策と利用促進、東海北陸自動車道の四車線化の工事促進を強く望みたい。

ビジネスジェット機受け入れなど富山空港の充実、大型クルーズ客船誘致とあわせ、立山黒部アルペンルートなど観光資源のさらなる魅力向上に取り組む必要がある。

●中山間地域対策は、喫緊の課題であり、山村振興ほか、地域にあった生活基盤の整備を県総合計画や謙譲憂いと合わせ、総合的に取り組むことが重要である。

(富山県議会が令和元年六月に発行した「富山県議会四力年の回顧」のなかの「議員任期中の思い」より)

どうかだと聞いているが、その対策にはどのようなことを考えねばならないのか。



濱瀬空港施設班長

富山きときと空港の特徴は、税関等のC/Q(*)の手続きが非常にスムーズであるということである。

また、高速道路のインターチェンジまで五分と近いこと、東京までもそれほど遠くないことなどが挙げられ、これらは大きなメリットになると考えている。

*C/Qは国境を越える交通および物流において必要であるとされる「税関」「出入国管理」「検疫」を包括した手続の略称こと。

米原委員

・これまで六便あったものが四便になった。

・この空いた空間をビジネスジェット機に使うともう条件が整いつつあるということですね。

濱瀬空港施設班長

時間的な部分としては、来やすい空港という利点はあるが、長い間駐機できないという部分では大きな問題がある。

港も、もう少し考えを広げていただけて、バスのことも色々考えていただける余地はないのですか。

平成三十一年二月二十二日

経営企画委員会

米原蕃委員の質問(要旨)

*新しい時代の技術革新について

テーマ

新技術の活用を考える

米原委員

・平成三十一年度の予算案、主要事業について大変ご苦労されたかと思えます。富山県民の未来の創造に向けて様々な新しい事業にしっかり取り組んでいただいたことに心から敬意を表したいと思います。

・人生100年時代という報告もありましたが、今の男性の平均年齢が八十一歳、女性が八十七歳。いきなり人生100年と言われても飛躍しすぎではないですか？

・昨年十一月に総務省を訪問したとき、かつて県の要職を務められた新田さん、あるいは出口さん、長岡さんらがおられ、「総務省では今どんなことを新しい時代に向けて取り組んでいるのですか」とお尋ねしてみた。その時に「5G(*)」というものが数年前には、脚光をあびる時代になってくるのではないかという話になり大変参考になった。

・さらにこの二月にまた総務省へ行った際に「その後何か変化がありましたか」と尋ねたところ、全国から様々なアイデアが寄せられており、具体的なイメー

米原委員

・であるとするなら、今は四便しか飛んでいないのに空港の前の無料駐車場は、なぜ、あれだけの車が駐車しているのか。一度調べてみる必要があるのではないか。

・またエプロンに問題があるというのであれば、セスナとかヘリコプターを移動して、そこへ何機か止めるということとをすれば安全性は保たれるのではないか。

・とにかく富山空港に行けば、すぐいい条件が整っている」と言っていたためにどのようなことをすればよいかが調べてあるか。

濱瀬空港施設班長

プロペラ機は、平成二十八年度では百五十回、二十九年では百十回来ており、ヘリコプターではそれぞれ八百十回、七百三十回着陸し、一週間程度駐機することが可能です。

ただ、それより大きいビジネスジェット機となると九十分で入国手続きをいただき、そのまま違う空港へ駐機していただく状況です。

米原委員

・滑走路には問題はないですね。問題は、中型ジェット機の場合は、九十分以上の駐機ができないという点ですね。

濱瀬空港施設班長

これらの機種になるとエプロンからはみ出してしまうので九十分までとさせていただいている。

米原委員

・今伺っていると、空いている空間をうまく使えば何か対策ができるのではな

じも広がっていると伺った。

・遠隔操作という技術を例にとれば、それによって行えることも色々増えていくでしょう。それが農業、製造業、建設業など多くの現場で革新を起こすかもしれない。

・生活の中にもどんどん入り込んで来るとしよう。

・予算の中の地域情報化推進費にも5Gへの予算が見込んでありますが、新年度にどんな取り組みをしていかれるおつもりなのか。

(*) 5Gは「超高速通信」「低遅延通信」「多数端末の接続の可能化」が特長。今までの4Gに比べ飛躍的な進歩を遂げた通信技術。

滝経営管理部長

例えば高性能カメラを搭載したドローンを遠隔操作して、遭難者の映像を送信するとともに、搭載した拡声器で遭難者とコミュニケーションを図ることで早期の救助を行うとか様々な活用方法が考えられます。

5Gについては、これまでの4Gと比べて高速であるだけでなく、同時に多数の機器に接続できるという利点があります。5Gになると100個ぐらいいに端末を同時に接続できるので家でいろいろなセンサーを作って、それを全部インターネットでつなげることでいるんじゃないかな。

これまでの情報通信技術とは比較にならないほどの技術革新が可能です。一つの基地局でカバーできるエリアが小さいという課題もありますが、私どもも頭を切り替えて取り組んでまいりたい。

もう一つ、5Gは、商業ベースで整

ないか。

・富山空港のメリットを生かしながら、富山県も様々な空港の活用積極的な取り組みをしているという姿勢を今後も見せてもらえないものかどうか。

竹野総合交通政策室長

国際ビジネスジェット機を受け入れることができれば、着陸料、あるいはそこで給油されることによって空港燃料譲与税が県の歳入となるというメリットもあります。

加えて言えば、パイロットや利用者も含めた飲食、宿泊、買い物という県内での消費、またはそもそも目的であるビジネスの展開、商談などで非常に大きな経済効果が期待できると考えている。

今後は、オリンピック、万博などが日本で開催されることから外国人のビジネスジェット機を利用した訪問客も増えると考えている。

今後、さらに多くのビジネスジェット機が入港、駐機できるよう河川管理者、地元関係者とも協議してまいりたい。

実は、スペースだけでなく余裕があるのです。ただ、今の施設では駐機できる設備が不十分であったり、実験を行う必要があると考えています。お力添えをよろしく願います。

米原委員

・空港には、色々な利用方法があるということを考えていかねばならない時代だと思えます。

・観光インバウンドで人がどんどん入ってくるけれども、富山市内にはバスで来て食事をする場所が少ないそうです。そうであれば、空港が空いている。空

備を進めていくことになる、都市部から整備を進めていくことになる。ただ、実際にその技術が必要なのは中山間地域を含めて地方であり、偏在なく基地局を整備することが非常に重要な課題と考えています。

予算については、いろいろな分野の有識者の方にも入っていたいて検討会を立ち上げ、先進事例もよく研究していきながら、国の動きに先行するくらいの意気込みで頑張っていきたいと思っています。



米原委員

・都会から5Gが始まるということはナセンSNSなのではないか。地方が先なはず。地方創生とはそういうことだと思えます。総務省は、積極的に支援できると言われたのだが、そこはどうなのですか？

・いずれにしても地方こそが、こうしたことに積極的に取り組んでいく時代になっているかならないかと思えます。しっかりと検討して、富山にふさわしい事業として取り組んでいただきたいということ要望して終わります。

(文責 米原蕃後援会)